

### 第3回 JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画策定会議 議事要旨

日 時	令和3年3月18日(木) 14時00分～16時00分		
場 所	古賀市役所501会議室		
出席者 (敬称略)	委員	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授	柴田 久
		熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授	星野 裕司
		古賀市商工会 会長	藤本 芳博
		花鶴タクシー有限公司 代表取締役	保井 亨
		株式会社古賀タクシー 代表取締役	後藤 正典
		西日本鉄道株式会社自動車事業本部営業部営業第二課 課長	小川 裕之
		九州旅客鉄道株式会社総合企画本部経営企画部 鉄道・開発計画 担当課長	力武 基樹
		福岡女学院看護大学 事務部長	武井 秀仁
		株式会社ホーホウ 代表取締役	木藤 亮太
		古賀市行政区 古賀東区長	尾塚 正明
		ニビシ醤油株式会社経営企画室 室長	玉谷 武志
		福岡県粕屋警察署交通規制課 課長	松田 雅文
		国土交通省九州地方整備局建政部都市整備課 課長	田中 耕介
		独立行政法人都市再生機構九州支社 都市再生業務部 まちづくり支援課 課長	高山 欣也 (代理:三棹 聖史)
		古賀市 建設産業部都市整備課古賀駅周辺開発推進室	
事務局 株式会社都市環境研究所			
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議事次第</li> <li>・資料1 都市計画道路のパターンについて</li> <li>・資料2 交通量の現況とループ案の影響について</li> <li>・資料3 駅前広場の現況と必要規模について</li> <li>・資料4 駅前広場の形状とパターン比較</li> <li>・資料5 道路の断面構成の考え方</li> <li>・資料6 JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画策定会議スケジュール(最終版)</li> </ul>		

#### <議事要旨>

#### 1. 開会

#### 2. 説明および意見交換

##### (1)都市計画道路のパターンについて

都市計画道路のパターンについてについて説明

##### (2)交通量の現況とループ案の影響について

交通量の現況とループ案の影響について説明

#### 【意見交換】

(副座長)

駅前の都市計画道路はループ状道路にすることにより、道路断面の交通量は減るが、郵便局前交差点の駅への右折車両は増えるということで考えて良いか。

(事務局)

開発交通量分が増加するため、駅前の整備に合わせて、信号現示の調整や右折レーン改良、あるいは南側交差点への交通の分散など、検討が必要と考えられる。現在、交通解析が進められており、ピーク時の飽和度の算出結果を踏まえて、朝夕が想定されるピーク時にも交通を処理できるよう対応を検討していきたい。

(委員)

郵便局前交差点については、通学時の学生の信号待ちが多く、歩行者の通行に関してうまく処理する方法を考えて欲しい。

### (3) 駅前広場の現況と必要規模について

駅前広場の現況と必要規模について説明

#### 【意見交換】

(委員)

古賀駅東口では現状は駐輪台数が多いが、整備の中で駐輪場はどうするのか。

(事務局)

駅前広場内に駐輪場を設ける想定ではないが、古賀駅東口周辺では自転車が多く利用されているので、利便性を考慮した駐輪場の配置を検討したい。

(委員)

自家用車での送迎が多いことを考えると、ピーク時にまで対応した駅前広場の規模にすると、日中閑散となるのが危惧される。公共交通へのシフトを見据えての規模算定とするなど、対応を考えるのがよい。

### (4) 駅前広場の形状とパターン比較

駅前広場の形状とパターン比較について説明

#### 【意見交換】

(委員)

駅前広場の配置案について、全ての案で通過交通はないということでよいか。

(事務局)

現状の駅前広場は道路部分を含むため通過交通があるが、新たに整備する駅前広場は駅前に用事がある人しか利用せず、通過交通とは分離される想定である。

(委員)

九州内では、駅と駅前広場が直結しているものが多く、通過交通のある道路が間にある例はない。駅と駅前広場の間にループ状道路を通すことによる制約はないか。

(事務局)

駅と駅前広場を自由通路でつなぎ立体横断とすることで、ループ状道路と交錯しない形を考えている。そのため、駅前広場側に、駅にアクセスしやすいよう昇降路や階段を設置する想定で検討している。

(委員)

現況の駅前広場には弊社用地もあるので、具体化の際には個別に調整をお願いする。

(委員)

駅前広場内にバスを入れないでループ状道路脇に停める形とし、駅前広場の利用は自家用車やタクシーに限るといのはどうか。

(事務局)

バスを道路脇に停車させる場合、バスが駅前にどの方面から入り、どの方面に出ていくかという、運航形態も含めての検討が必要となる。バスを駅前広場内に入れる形であれば転回できるため、どのようなルートでも対応が可能である。

(委員)

雨の時に濡れないでバス利用者が待機できるように、道路脇にバス駐車場を設けた方がよいと思う。

(事務局)

駅前広場の場合でも、バスシェルターを設けることで濡れない形とすることは可能であるが、どうするかはまだ決まっていないため、ご意見も踏まえて検討したい。

(座長)

自由通路にも屋根を設けることは考えられるので、今後立体的な整備計画の検討を進めて欲しい。

(委員)

駅前広場を南側に配置した場合、既存の施設はどうなるのか。

(古賀市)

現在検討している駅前広場や道路は、まちづくりとして必要なものは何かということ踏まえて規模や配置をまず考えている。現時点では地権者と具体的に話を進めている訳でないが、今後、計画内容によってニビシ醤油以外の地権者の方々にも協力を求めていくことになる。その際には、市として丁寧に対応していきたいと考えている。

(委員)

バス事業者としての観点では、動線を考えても駅前広場は南側配置がよいと思う。また、出入口が分かると、交錯による歩行者の危険性が増すことが危惧されるため出入口は1つの方がよいだろう。道路脇にバス駐車場を設けてはという意見があったが、バス系統をどうするかということに関わってくる。現状は2系統バス路線があるが、古賀駅が終点の系統では、バスを待機させる必要があり、可能であれば対応できるようにしてほしい。その他、現状の駅前広場は朝に自家用車や企業バスで埋まっていることもあるので、余裕を持った計画として欲しい。

(委員)

ループ状道路にするのであれば、道路脇を広くして全ての自動車が駐停車できるようにすれば、駅前広場を設けなくてもよくなるのではないかと。

(事務局)

駅前の直線部分の延長はそこまで長くなく、必要な各機能の台数を道路脇に並べると渋滞を招く恐れや安全上の問題が生じる恐れがある。カーブの先の道路脇を利用することもあるかもしれないが、駅から遠くなってしまい、利用者の利便性を考えると駅前広場に集約する方が望ましいと考える。

(副座長)

駅前広場の計画については、西口の現状の使われ方も踏まえて検討すべきだろう。西口にも企業バスが待機しているが、新しく東口が整備されると、そちらに利用が移ることも考えられる。東口と西口とで役割を分担する等考えられると思うが、どのように考えているのか。

(古賀市)

西口駅前広場についても現都市計画案からの変更を検討しており、交通サービスは東口、西口セット

で考える必要性を認識している。西口駅前広場については必要面積等を検討中の段階であり、今後基本的な要件については示したいと考えている。現時点で東口の駅前広場は、最大でバス停車の台数は2台程度と考えているが、今後西日本鉄道と協議調整していきたい。

(委員)

今回の整備により、できるだけ自動車の集中を抑えて、駅を緑の公園につなげていくことを考えるべきだろう。現在は自家用車が多く、タクシーが停まる場所を占有している。車が集中していると景観上もよくない。

(副座長)

今後の土地利用やオープンスペースの快適さなどを考えると、南側に集合住宅が建つと廊下や玄関が公園に面するので、景観としても良好な環境にはなりにくい。南側に公園があり、北側に建物がある方が、民間開発としてもニーズが高いものになるだろう。その観点からしても、駅前広場は北側の開発用地が多くなる南側配置の方がよいだろう。

## (5) 道路の断面構成の考え方

道路の断面構成の考え方について説明

### 【意見交換】

(副座長)

隣接地をうまく使いつつ、ミニマムな道路断面構成にするという考え方であると思う。ループ状道路において人の横断が発生すると思うが、どのように考えているか。

(事務局)

駅から公園へのアクセスについては、自由通路を使い立体的に横断を検討している。公園とリーパズプラザとのアクセスについては今後考える必要があるが、ループ状道路とし、北側・南側それぞれの交差点で駅方面への交通を処理することで、南北の交差点間の自動車交通量を減らし、歩行者に優しい環境とすることも意図している。また、具体の位置は今後の検討だが、開発用地の間に公園へのアクセス通路を確保したいと考えており、その通路の位置に合わせた横断歩道の設置が考えられる。

(古賀市)

公園とリーパズプラザとのアクセスについては、横断歩道による平面横断だけではなく、立体横断も含めて検討したいとは考えているが、今後の課題としたい。

(委員)

300人以上の学生が自転車で通学しており、線路脇の駐輪場を利用している。将来的に整備が進んだ場合にも、学生が利用しやすいよう、安全性も含めて検討をお願いしたい。

(事務局)

学生が多く立ち寄り快適に滞在してもらえるようになれば、駅前の雰囲気は良くなるので、ご意見も踏まえて検討していきたい。

(委員)

東口駅前整備はハード整備なので実現に向けて時間がかかる。これから変わる社会情勢も考慮して検討する必要があると思うが、今後の10年をどう捉えて計画案を検討するのか。

(副座長)

他地区で長期間駅前広場整備に関わった経験から言うと、駅前広場は暮らしのインフラに関わるものであり、10年間ではそこまで変わらないと思う。それは交通の在り方が変わっていないからである。今後、Maasや交通のサブスクリプション等、交通サービスの変化に取り組んでいくと駅前広場も変わってくる可能性があるが、交通サービスの変化は行政が主導していくものであるため、そのような変化は継続的

に計画に反映できるだろう。

(座長)

近年では自動運転などの話題もあり、IT化による交通の運航形態の影響はでてくるだろう。その変化が劇的に進むかそうでないかは現時点ではわからないが、大切なのは古賀市の魅力を失わないこと、今の良さを保つ計画案とすることである。マイナスにならないような計画案をつくる必要があると考える。

## (6) 次回以降のスケジュール

次回以降のスケジュールについて説明

次回策定会議 日時:令和3年4月26日(月)14:00～16:00

以上